

法令と技術情報 ―個から公への活用・継承―

技術者は構造物の安全性を示すために多くの調査を行い、最終的には各種の図書を作成することとなります。ただし基礎・地盤に関する情報は、模様替え等の供用期間中のニーズがほとんどないこともあって完成図までは作成されず、「今どのような状態で敷地が使われているのか」が、後から得るのは困難な場合が多いにもかかわらず、必ずしも明確でない状況となっています。一方で、経済合理性や環境負荷低減の観点から既設の杭を再利用するといった検討も行われつつあり、今後このような計画が前提となることを考えた場合には、敷地は原地盤だけでなく、杭や地盤改良などによって手を加えられた後の一体的な情報まで拡張して考える必要があります。さらに、液状化マップをはじめとする各種の広域的な防災を推進する上で、これら敷地の情報は個々の物件に留まらず一種の公共財として扱う視点も重要で、そのためには設計だけでなく施工も含めて情報共有・継承できる仕組みが必要となると考えられます。

このような背景から、本号では「法令と技術情報 ―個から公への活用・継承―」と題し、建築物では通常は施主や発注者の所有物として保存される基礎・地盤の技術情報（調査・設計・施工の各段階で得られるもの）について、その枠を超えた活用・継承の動きをご紹介いただくための特集を企画しました。総説では今後データの蓄積・流通を進めてゆくにあたって整理が不可欠で、かつ技術者としては馴染みのない関係法令について網羅的に整理されています。2 編の論説では、中規模以上の共同住宅と小規模な戸建て住宅に関わるそれぞれの立場から、設計施工の情報の活用実態や、リスク管理としての情報保存の重要性について紹介いただいています。4 件の報告では、実際に地盤に関連する技術情報を活用する立場から、情報の取得や提供、補間に関する事例や、将来的な共有財産とする上での今後の展望（要望）について報告されています。

本特集が、読者の皆様にとって有益なものとなることを願っております。

（井上 波彦, 黒田 広亮, 伊藤 真一, 柴田 俊文, 長坂 光泰, 平井 健太, 山本 裕司）

総説	地盤情報の取扱いに関する法的状況 大森 文彦	1
論説	技術情報の有効活用と建築法令 発注者・建物所有者の立場から 渡辺 一弘	5
論説	戸建住宅における設計・施工情報の活用 伊集院 博／川崎 淳志／佐々木 修平	10
報告	国土地盤情報データベースの構築状況と高度利用に向けての課題 岩崎 公俊／土屋 彰義	14
報告	地盤情報の活用と継承における課題 西山 昭一／和田 里絵／小西 千里／濱田 俊介	18

報告	建築設計 BIM の現状と構造関連データについて 構造パラメータと基礎設計情報の取り扱い	22
	伊藤 央	
報告 (公募)	地盤調査における詳細情報の取得 ―NSWS を活用した SPT 情報の補完と詳細化―	26
	近藤 巧／大野 司郎	
技術紹介	発破による締固めと液状化	32
	加藤 謙吾	
学会の動き	技術者・研究者紹介 ～男女共同参画・ダイバーシティに関する委員会編～	34
	熊野 直子／高原 利幸／藤井 登／浅田 素之	
	コロナ禍を逆手に取ったダイバーシティの拡大	35
	飛田 哲男	
	コロナ禍でのテレワークにより変化した私のワークライフバランス	38
	小林 真貴子	
	我が家のワークライフバランス	42
	酒本 真先	
技術手帳	近年の豪雨の特徴と確率降水量	45
	山本 晴彦	
	(担当 若井 明彦)	
講座	フレッシューズのための『続・土質力学』	47
	第1回 講座を始めるにあたって	
	若井 明彦／粕谷 悠紀	
	第2回 耳をすませば、地盤調査法	53
	三上 武子／武政 学	
	(担当 沢津橋 雅裕)	
会告	会員種別「学生会員」の廃止について	60
	(公社) 地盤工学会	
	絶版図書に対する会員限定の電子図書室でのアーカイブ利用のための収録許可のお願い	61
	(公社) 地盤工学会	